

## スポーツボランティアプログラム

### 愛宕小学校連携企画 「都立大生と一緒に！ スポーツ体験教室」

種目：くつしたまいれ・ポッチャ・ゴールボール

#### 活動場所

八王子市立愛宕小学校体育館

2022年11月27日（日）

#### 報告

##### 愛宕小学校でのスポーツ体験教室開催

11月27日(日)、近隣の八王子市立愛宕小学校との連携企画で同小学校体育館において、スポーツ体験教室を開催しました。本学ボランティアセンターのスポーツボランティアプログラムの一環であり、コロナ後初めての学外でのスポーツ体験教室開催でした。小学生14人、父母7人、学生11人、職員2人の合計33名が参加しました。

当日参加する子供たちが喜んでもらえるように、学生たちは、「くつしたまいれ」、「ポッチャ」、「ゴールボール」の各競技の事前準備とリハーサルを入念に行ってきました。

##### スポーツ体験教室、会場準備・開会式

午前9時30分から約30分間、体育館のモップ掛け・窓開けから始め、ゲーム3種目のため、床にラインテープを貼りました。ゴールボールはロープを丁寧に敷いた上にラインテープを貼り、アイマスクで目隠ししても手のひらの触覚で位置を把握できるようにしました。

10時から、参加者全員が集合して、子供たちと学生たちがお互いに挨拶とメンバー紹介をしました。



学生たちは、自己紹介を記した模造紙を示し、ニックネームで呼んでほしいとアピールしたので、子供たちからは親しくニックネームで呼ばれていました。

##### ゴールボール

ゴールボールは、視覚障害者を対象に考えられた競技で、目隠しをつけ、鈴の入ったボールを転がし合い、相手ゴールに入れて得点を競います。多くの子供たちにとってもお馴染みのゲームだったらしく、最初に子供たちが殺到しました。男女共に元気な子供ばかりで、アイマスクを付けてのボールキャッチも、優れた視覚以外の感覚で上手くできました。



3対3でのゲームでは、ボールの転がる音を聞いて横倒れになり体でボールがゴールに入るのを防ぐ守備を、目が見えない状態でも上手くできていました。学生たちが子供・父母をリードし、次々に白熱したゲームを展開しました。



ゴールボール



くつしたまいれ



ポッチャ

##### くつしたまいれ

一見地味な「くつしたまいれ」ですが、子供たちは夢中になり、組にして丸めた靴下を上手に投げて得点を重ねました。2分のゲーム時間は真剣勝負で、30-40組の靴下が籠に入っていました。「家でもちゃんと靴下を組みにして畳んでいるんだよ」との子供からの声にほっこりしたり、父母たちも一緒に夢中になっていました。

##### ポッチャ

子供たちと父母が狙いを定めて赤・青のボールを投げますが、上手く白いジャックボールに当たったり、思ったようにボールが転がらなかったりで、悲喜こもごものゲームが展開されました。エンド終了時、コンパスとメジャーを持って白いジャックボールのまわりで得点を数える学生審判のまわりに皆が集まり、得点のカウントに歓声を上げていました。

閉会式では、子供たちが今日のスポーツを楽しんだこと、ゴールボールでは目の見えない人の気持ちがよく分かったこと、次は違うスポーツもやりたいとの希望や、父母からはくつしたまいれとポッチャも楽しかった等々の感想がありました。

全員が怪我もなく無事に楽しいスポーツ体験教室を開催できたことに学生たちも安堵していました。

子供たちからも、再度スポーツ体験教室を開催してほしいとの要望が多数ありました。今後も継続できるように進めていきたいです。

##### プログラムメンバーの声

次ページにまとめて掲載しましたので、ご覧ください。

## ■ プログラムメンバーの声

- 当日の活動や事前準備も含めて、メンバーのみんなが自主的に動いてくれたため、活動が大成功となって大変良かったです。また小学生の笑顔がたくさん見られ、何度も同じ競技のところに来てくれた児童もいて、小学生と一緒に活動を楽しめた。
- 大学生の名前を呼んだらシールをもらえるというシステムにしたことで小学生との交流がより深まり、良かったと思います。競技に取り組んでいる最中子供達の笑顔が見られたから。閉会式ではたくさんの「楽しかった」というコメントをもらえたから。保護者の方にも楽しんでもらったので予想以上に達成できたと思います。
- 小学生というくくりでも6年も違うと発達段階は違うので、どのようなことが嫌なのか、恥ずかしく思うのかを考えながらできた。また、子ども同士ならではの取り合いっ子が目立っていたので、そこにどう介入するかは難しいと思った。自分自身も楽しめたし、また来てね、という言葉が見られたのは嬉しい。積極的に交流出来たし、話してて笑顔が見られ、大変良かった。
- ボッチャグループのリーダーでありながら、経験の差やサークル・バイトによる忙しさによって主導的な立場をとることが出来ず、少なからず受動的なマインドセットで活動していたことは反省に値する。けれどすごく楽しかった。多くの児童が楽しんでいる様子を見るのが出来た。
- 小学生はとても元気な分、走り回ったり危険なことをする可能性があるので、しっかり見守っている必要があると思った。子供たちが皆楽しそうにスポーツをしていた。
- 子どもたちだけでなく保護者の方とも話が出来て、一つの競技で一体になれたこと。消しゴムの印鑑を他の競技の所に押ししてしまったのが失敗です。当初は子どもたちだけの体験との事でしたが、保護者も一緒に体験することが重要かと感じました。きっとお昼とかで家族間の会話で協議の話が出たことは想像できます。怪我がなかったことが大事な要素です。
- メダルを作ったのがとても良くて、スタンプやシールを通して小学生と交流を深めることができた。課題としては3競技の連携がうまく行かず、競技の進行具合がずれてしまい、小学生が1つの競技に集まってしまうといった状況になってしまったため、入れ替えの時間を決めるといった事前準備が必要だったかもしれない。一方で、ゴールボールは同じ小学生が何度もやりたいと言ってきて体験してくれていたのも、全員を強制的に他の競技に行かせるのも良いことではないと思った。今回の良かった点、反省点を生かしていきたい。これまでのボランティア活動より、学生が中心となって体験会の運営を行うことができた。小学生とも競技やスタンプなどを通して楽しくふれあうことができた。
- これまでにないタイプのスポーツボランティアであったが、思った以上に問題もなく進んだ点は良かったと思う。しかし、好きな競技に行って人のいない競技ができてしまったりしていたので、その時はみんなで別の競技を楽しむなど出来ればよかったなと思った。スケジュール通りにならなかったり、人数が上手くわかれなかったりしたがそれも含めて楽しみながら対応出来た。

以上